

# 一般財団法人 世界遺産白川郷合掌造り保存財団

令和4年度決算に関する書類

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

## I 事業概要

当財団の設立目的に基づき世界遺産集落とそれらを取り巻く地域の保全を中心とした事業を展開し、わが国の文化の向上と地域の振興発展に寄与する。

駐車場入込数は令和4年度、普通車、大型車共に各月昨年度を上回る入り込みとなった。普通車について、年度後半以後入り込みは令和元年以前の台数に戻りつつあり、1月、3月は過去最多となった。大型車については、過去の平均入り込みを下回るものの、次年度の回復が見込まれる入り込みとなった。

コロナ感染症拡大の影響により、昨年度に引き続き、集落整備事業において自治保存会育成事業を中止せざるを得なかった。

茅刈り機導入2年目となり、本格的に機械での茅刈りを行った。茅刈りの作業効率を上げるのと合わせ、安全に作業が行われるよう、体制づくりへの指導、助言を行うと共に、更なる茅自給率向上を図るため、作業実施者、関係者と協議を行った。

「白川郷荻町集落の自然環境を守る会」（以後「守る会」）に対し、引き続き参画、支援を行った。また、今まで継続して実施してきた事業と合わせ令和4年度より、集落内の「空き家」、「さら地」、「危険家屋」等各問題に対して現状把握を行いながら、解決の方法、方向を協議するために「荻町構想計画会議」に参画をした。

## II 事業実績

### ■ 世界遺産合掌造り集落整備事業

#### 1. 修理事業

##### ア 差し茅助成

数十年に1回の全面葺き替えのほかに、茅の風化によって腐食した部分的なくぼみや漏水箇所を補修するため、傷んだ部分に補修用の茅を差す作業。屋根葺と違い、足場を設置せず、非常に危険なので、最近では熟練者に依頼する所有者が多い。今年度は7棟に助成を行った。

##### イ 伝統的建造物修理費助成

伝統的建造物の維持に当たって、国庫補助事業であっても個人負担が過大であるため、非営業者に対してその一部および茅屋根部分における修理に当財団が助成する。今年度は2棟に助成を行った。

##### ウ 棟茅葺替助成

合掌造りの最上部(棟)に置く茅は横置きのため、雨水が浸透し、腐食しやすい。そのため、毎年その横置きの棟茅を葺き替える必要があるが、この作業は、国庫補助対象外となっている。遺産地区には109棟の伝統的建造物に特定された合掌造りが存在し、毎年全棟分の必要経費に対する補助

金が必要となる。当財団では、今後も合掌集落の良好な景観を保全していくために早急な修理が必要であると考え、その修理に対する助成を行う。今年度は補助対象 105 棟の伝統的建造物の内、93 棟と全体の 9 割弱が施工している。今後も全棟施工をめざして普及活動を促進する。

#### エ トタン屋根葺替助成

伝統的建造物に特定された建造物においても、主屋がトタン屋根のものや主屋は茅葺だが落屋がトタン葺のもの等、トタンで葺かれた屋根は多い。これらトタン屋根の色を茅葺の色彩に調和したものにすることで伝統的建造物の価値の維持を図る。今年度の実施は無かった。

## 2. 修景事業

### ア 修景協力費助成

住民の現状変更行為に対して付された許可条件にかかる上乗せ経費の負担を一部助成する。また、集落内に存在する 440 棟の建物のうち、合掌造りは 4 分の 1 の 114 棟であり、一般建造物の中には集落の景観に合わない建物も同居している。そのうち、所有者の了解が得られるものから順に、移転あるいは除却もしくは外観修景を行ない景観の向上を図る。今年度は 4 棟に助成を行った。

### イ トタン屋根葺替

集落内には、合掌造り建造物の他に 300 棟あまりのカラートタン屋根の建造物が存在する。伝統的建造物所有者が受ける補助と同等の屋根修理に対する補助を実施して、集落全体の保存コンセンサスの醸成を図る。今年度は実施が無かった。

### ウ ビニールシート指定色奨励事業（差額補助）

生活関連の行為、あるいは工事などの、様々な場面で使用されるビニールシートは、ほぼ全部が現在青色である。それらを、使用できなくすることは不可能であるため、景観阻害を和らげられるよう、目立ちにくい茶色シートの販売を奨励することとし、割高分を当財団が助成する。なお、当初財団が、シート各サイズをすべて買い上げて在庫として保有する計画であったが、小売店の協力が得られることとなり、小売店を通じての販売実績に対しての差額を助成する。今年度も 21 枚の茶色シートが売れ、その差額分の助成を行った。

### エ 一般建築物茅葺屋根補修

遺産地区内には伝統的建造物に特定されていない茅葺屋根をもった建造物が 5 棟あり、その茅葺屋根の補修についても伝統的建造物と同様に毎年のメンテナンス経費がかかる。

これら 5 棟は伝統的建造物に特定されていないとはいえ遺産地区内における歴史的意義を持つものとしての役割を担っている。よって修景事業において助成を行う。今年度は棟茅 4 棟、屋根葺き替え 1 棟の補修を行った。

### オ オダレ助成

オダレとは昔から白川村で使われてきた茅で編みこまれた簾状の雪囲いのことである。現在のように、輸入物の簾やトタン等の流入資材の普及する以前はこのオダレが雪対策を担ってきた。しかし、これら安価な新規資材の流入によりオダレ自体は当然のことオダレを作る技術までも消失しようとしている。また、白川村の降雪期間は 6 ヶ月と非常に長期にわたるため 1 年の半分は大半の建造物が雪囲いに覆われていることになり遺産地区の景観に与える影響は大変大きい。これらの理由から、伝統技術の保存、歴史的景観保全の観点からこのオダレに対する経費の助成を行う。今年度は 17 枚分に助成した。

### 3. 地域活性化事業

#### ア 自治保存会活動費助成

遺産地区の保存活動を行っている「守る会」に対し、年間の活動費に対する助成を行う。令和4年度は新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで定例会、各種会議を繋ぎ、機関紙「ねそ」の発行、茅刈り作業、合掌施設管理など様々な取組を行った。

#### イ 自治保存会育成事業

令和4年度の自治保存会育成事業は新型コロナウイルス感染症の拡大により視察研修は中止した。

#### ウ 人材育成事業

現在白川郷学園では児童の地域社会に貢献する人材の育成をめざした「ふるさと学習」にあわせ、白川村の伝統文化から学ぶ授業を取り入れている。授業の中で積極的に取り上げられることで次世代の遺産保存のための「人づくり」に繋がると考えられる。財団としてはこの計画に参画し積極的に教育活動を行う。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、白川郷学園5年生の田づくり、2年生を対象としたサツマイモづくりは内容を縮小したが、景観保全学習につながる教材への助成は例年どおり行った。結助成について今年度対象は無かった。

#### エ 茅の自給率向上施策と調査研究

茅刈り機導入2年目となり、茅刈り実施者と適宜、協議しながら、本格的に機械での茅刈りを行い、馬狩900束、脇谷950束、白弓70束、その他184束の計2,104束が刈り取られた。この他、茅自給率向上を図るため、降雪により茅刈りが不可能になる冬期間の作業実施場所の確保や、村内で刈り取り可能な茅の質を向上させる野焼きを一部の茅場で試行した。

### 4. 水田復旧事業

#### 復旧農地の維持管理・活用

現在、遺産地区内の水田総面積11.9ha（451筆）の内2.6ha（110筆）22%の水田が耕作放棄地となっている。放棄地が増加している要因は人手不足、高齢化、耕作意欲の欠如等の人的要因と湿田、農機が入らない等の立地的要因が挙げられる。耕作放棄地は放棄地そのものの与える景観的影響は当然であるが、その周囲の水田にも悪影響を及ぼす連鎖的な農地の荒廃化を促している。事業の目的はこの悪循環を解消するための緊急対策として直接当財団において耕作放棄地の復旧を行うことで農地の荒廃化に歯止めをかけ、地区住民に水田の重要性を深く認識してもらい、農村景観の保全と観光農業振興から地域産業の創出へ寄与することを目的とする。令和4年度は、水田4,250㎡と畑70㎡の耕作を行った。また、米のブランド化および販売ネットワーク確立のため、「しんがいゆい米」として継続的に販売を行っている。

### 5. 啓発・啓蒙事業

#### ア 会報発行事業

年一回当財団の事業成果を公開する目的として会報発行事業を行っている。今年度も第25号を発行した。内容は「守る会」会長の野谷信二氏に執筆をいただいたほか、「人材育成事業」「駐車場の入込み」「会計報告」を掲載した。印刷物仕様A4カラー6頁、印刷部数1,500部。配布先は白川村民全戸及び関係機関と村外の合掌基金寄附者で、基金寄附者には礼状を添えて約600部発送した。

#### イ 合掌財団ホームページ作成事業

当財団の情報公開を目的として、毎年情報の発信を行う。

ウ 白川郷遊歩ガイドの普及促進

当財団発行の「白川郷遊歩ガイド」の普及促進を行う。今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、手渡しによる駐車場利用者への無料配布を中止した。

エ 世界遺産合掌集落保存基金募金箱推進事業

民宿や土産物店等の観光営業所に合掌基金募金箱を設置したところ、総募金額は 237,112 円であった。今後も更にこの志が広く伝わるよう推進に努めたい。

■ 受託事業

1. せせらぎ公園小呂駐車場・みだしま農村公園駐車場・寺尾駐車場管理運営業務受託事業

白川村の公共駐車場である「せせらぎ公園小呂駐車場」等の管理運営業務受託事業を行った。

(受託内容)

- ・ 駐車場を公共の利用に供すること及び日常的な管理
- ・ 駐車場の利用料金の徴収及び白川村への納付事務

令和4年度の利用台数は普通車、大型車共に各月前年を上回り、1・3月の普通車入り込みは過去最高を記録した。普通車は令和3年度より約1.4倍増、ピーク時(平成29年度)と比較して1割下回る水準まで回復した。大型車入り込みは令和3年度より大きく増加したが、ピーク時(平成30年度)と比較すると3割弱の水準にとどまっている。また、年度全体では普通車の入り込みについては10月以降、大型車入り込みについては3月分が過去の平均を上回り、次年度の入り込みに希望が持てる台数となった。

2. 総合案内「であいの館」施設管理運営業務受託事業

せせらぎ公園駐車場の受託と共に平成9年度から総合案内所の指定管理業務を行っている。であいの館一階では観光協会が窓口案内および宿泊斡旋予約業務を行っている。

(受託内容)

- ・ 館を公共の利用に供する日常的な管理
- ・ 館の維持、消耗品の補充及び樹木、草花の育成管理
- ・ 館に配備された設備及び備品の維持管理